

「自ら学び続ける児童の育成をめざして」

丹波市立青垣小学校
主幹教諭 荻野由香里

1 取組の内容・方法

令和2年度がスタートしてまもなく、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休業の措置がとられた。長引く臨時休業の中でも、児童とのつながりを持ち、学習意欲を低下させず、学習を保障することが大きな課題となった。丹波市では、令和2年5月に臨時休業中の学びを止めないため、長期化する自宅での自学自習において、児童が自律的に取り組める予習型のワークシートや動画等の作成を目的とした丹波市予習型教材作成チームがつくられた。その際、小学校国語部会のメンバーとして参加し、児童が進んで家庭学習できるような教材を作成して丹波市内の小学校に提供することができた。

また、令和2年度丹波市教育委員会主催の初任者研修において、「子どもたちが輝く言葉がけ・授業づくり」をテーマに5年生国語の授業公開をし、講話を行う機会をいただいた。授業や講話を通して、児童が意欲的に取り組むために自分が大切にしてきたことを見直し、初任者の先生方に伝えることができた。

(1) 児童が進んで取り組める予習型教材の作成

予習型教材作成にあたって

予習型教材作成チーム小学校国語部会は8名で構成された。第1回目の会議では、各校の休校中の取組を交流し、現状における課題をはっきりさせた。各校とも、漢字や言語事項の家庭学習については、ドリルやプリント等を活用しながら家庭学習を進めていたが、物語文や説明文教材については、学校で基本事項を教えたり、自分の考えを持った上で友だちと交流しながら深めたりする学習ができない中、どのように家庭学習を進められるのかという悩みが多かった。そこで、5月当初に読解の基礎として学習する説明文教材についての予習型教材を作成することにした。

学年	教材名（東京書籍）	言葉の力
1年	さとうとしお	事柄の順序などに気をつけて、内容の大体をとらえる。
2年	たんぼぼ	説明の順序をとらえる。
3年	自然のかくし絵	段落の内容をとらえる。
4年	ヤドカリとイソギンチャク	文章のまとまりをとらえる。
5年	動物たちが教えてくれる海の中の暮らし	要旨をとらえる。
6年	イースター島にはなぜ森林がないのか	論の進め方をとらえる。

作成するには、単元で必要な力をつけるための学習活動を考え、「つかむ」「取り組む」「ふり返る」の3段階で学習が進むようにワークシートを作成すること、家庭での自学が進むように、内容によっては考え方のアドバイスを入れたり、解説動画を加えたりすることを決めた。家庭での自学であっても、自分の学びをふり返ってできたことが実感できる主体性や、登校した時に授業で活かし、友だちとの交流によって深い学びにつながるような予習型教材にすることを話し合った。

3年生「自然のかくし絵」(東京書籍)の教材作成

私が担当した3年生教材「自然のかくし絵」では、学習内容を考えて7枚のワークシートを作成した。また、児童の学びの手引きとして有効であると考えた内容については動画を作成した。

学習段階	学習のめあて	動画
つかむ	「自然のかくし絵」が、どんなものなのか考えながら、教科書を読もう!	・教材の範読
	知っておきたい言葉をたしかめ、「自然のかくし絵」にくわしくなろう!	
取り組む	ほご色とは何かをはっきりさせよう!	・だん落の意味 ・だいじな言葉の見つけ方
	コノハチョウの身のかくし方をはっきりさせよう!	・「問い」と「答え」の関係
	トノサマバッタとゴマダラチョウのよう虫の身のかくし方をはっきりさせよう!	・読み取りの手がかり
ふり返	ほご色がどんな場合でも役に立つのかをはっきりさせよう!	・「問い」と「答え」の関係 ・読み取りの手がかり
	ほご色がどれほど役立つものなのかをはっきりさせ、「自然のかくし絵」について感そつをまとめよう!	

④ コノハチョウの羽のうらみ、かかれまのよう色、水をまとったときの形、かかれまを見分けがつかない

コノハチョウは、

③ ほご色、どのまに身をかくしているのか

② ほご色、はご色にまわって、さらに身をかくしているのか

① 自分、自分の体と同じような色、動いたときは食べられる、ちよつとした動作を見がさい、するどい目を持っている

⑧ 鳥やトカゲが色を見分けられるか、人間と同じくらい、人間の目をたますのと同じくらい、身をかくすのに役立つ

⑨ 一日のさまたつた時間だけ活動、ほかの時間はじっと休む、体は暗い色か明るい色、身をかくすのに役立つ

⑩ 自分の体の色と同じような色、動いたときは食べられる、ちよつとした動作を見がさい、するどい目を持っている

⑪ 自分、自分の体と同じような色、動いたときは食べられる、ちよつとした動作を見がさい、するどい目を持っている

〔動画のQRコードをつけた予習型ワークシート〕

授業での活用

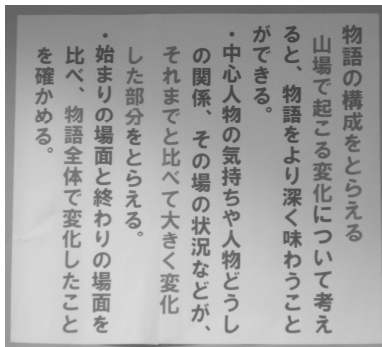
実際に5、6年生国語の授業で、予習型教材作成チームで作成した教材を活用した。ワークシートは児童が自学できることを考え、わかりやすくめあてが絞られているので、予習として児童が一人でも進められる内容であった。ワークシートをもとに予習してきたことを授業で活用することにより学習が確かなものになり、友だちと交流することで考えを深めることができた。単元で身につける力をはっきりさせ、指導内容を整理して作成されているので、学校再開後の限られた時間内で授業を進めるために大変役立った。

(2) 子どもたちが輝く言葉がけ・授業づくり

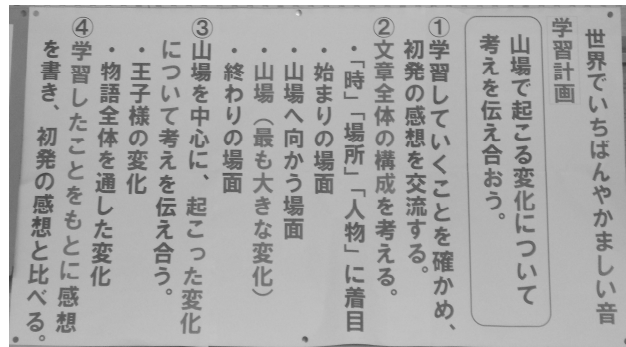
初任者研修では、先生方が実践される時の参考になるように、授業づくりの考え方や児童に力をつけるための支援を具体的に示したいと考えた。公開授業では、5年生国語「山場で起こる変化について考えを伝え合おう～世界でいちばんやかましい音～」を參觀していただき、単元構成や授業づくりで大切にしていることについて講話した。

単元のねらいをはっきり持つ

単元構成を考える時には、その単元でつけたい力をはっきりさせてから、学習計画を立てる。教科書には単元ごとに大切な言葉の力が示されているので、それをもとにして、単元のはじめに児童と一緒に確認し、その力をつけるための学習計画を立てていく。国語の物語文や説明文教材では、単元指導計画が10時間近くなるような長い単元になるので、ゴールをはっきりさせることで、児童に学習の見通しを持たせることを大切にしている。



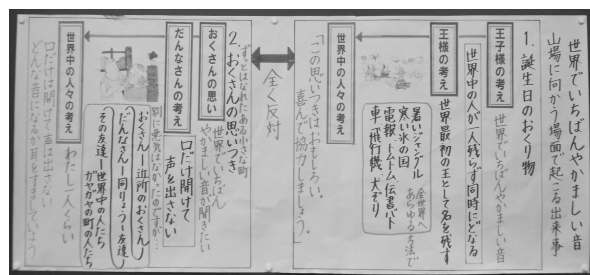
〔単元でつける言葉の力〕



〔単元学習計画〕

支援の手立てを考える

児童が意欲的に学習に取り組めるための支援には様々なものがあると考えられる。児童の実態や教材の魅力に合った学習課題の設定、気づきを深めるための発問、児童の考えを整理した板書、学習したことを確かめることができる学習のあしあと等は重要である。



〔学習のあしあと〕

また、児童を認める評価言も大きな支援であるとする。評価言にも励ます、価値づける、深める、整理する、つなぐ等、場面に応じて考えることができる。その場で児童に伝える言葉は効果的であるが、ワークシートやノートへのコメントも児童にとってはやる気につながるものになる。また、児童にとって、友だちに認めてもらうことも大きな自信につながる。児童同士で認め合える場面も授業の中で意識的に取り入れたいと考えている。

学びをふり返る

児童が自分自身の学びをふり返り、できるようになったことやこれから頑張りたいことを確かめるための活動も大切にしている。「登場人物の言葉や行動を比べることで、山場の前後に起きた変化がよくわかった。」「山場に向かうしかけもおもしろかった。別の物語でも山場が見つけられそうだ。」等、学習のめあてに沿っており、次の学習や生活につながるようにふり返ることで、自分の力を確かめる力につながるのではないかと考える。

2 取組の成果

予習型教材については、丹波市内の学校で課題となっていた説明文教材の自学自習の進め方について、参考になるものが作成できたと思う。また、めあての明確化や児童の主体性や思考力、判断力を培うことを考えた教材作成の過程は、単元構成や1時間の授業を考える上での学びになった。

初任者研修での授業公開や講話については、初任者の先生から以下のような感想をいただいた。先生方にとって児童生徒のための授業づくりに役立ててもらえればうれしく思う。

- 言葉がけだけでなく、板書の方法の勉強にもなりました。児童が落ち着いて考えられていたのは、温かい声かけ、肯定的な声かけがあったからだと思います。まねをしていきたいと同時に、もっと教材研究をしないといけないと思いました。
- 多くの声かけがあり、その種類も様々で明日から使ってみたい、実践したいことが見つかりました。本の読み方、手の挙げ方、発表の仕方など、自分の課題も多く見つかりました。子どもたちが気持ちよく学習できる環境を整え、全員を認める声かけをしていきたいと思いました。
- 教師の言葉のかけ方一つで、児童の反応や理解にも変化があったように思います。

3 課題及び今後の取組の方向

児童が課題に興味を持ち、自ら進んで学習に取り組む自学自習の力をつけることは、新指導要領でめざす「主体的・対話的で深い学び」にとっても必要であるとする。今年度作成した予習型教材作成の考え方が、他の単元や教科でも活かせるようにしていきたい。また、児童が学びに自信をもって意欲を高めることができるように、日々の授業づくりにも取り組み、研鑽を積んでいきたい。